

女性のプロ野球ファン —インタビューからみるファンの実態—

西本 慎悟 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 黒須 朱莉

キーワード：プロ野球，女性ファン，プロセス，観点，変化

1. 緒言

近年プロ野球観戦を楽しむ女性が急増している。プロ野球の12球団のファンクラブの中で、女性ファンの割合が4割を超えるチームが4球団も存在している。さらに、広島カープの女性ファン42%のうち20%が20代以下の女性であり、観客の10%が若い女性であるとされる。近年プロ野球では女性ファン、特に若い女性のファンが確実に増えているのである。では、このように若い女性ファンが増えている状況において、彼女達はどのようにプロ野球を応援しているのだろうか。

プロ野球の女性ファンを対象にした研究に、村上(2012)と林(2015)がある。村上は時代ごとの女性ファンの眼差しやプロ野球に求めたことの変化を明らかにし、林は女性のプロ野球ファンの集団的特性を明らかにしている。しかし、ファンである彼女ら個人に着目し、ファンになるプロセスや観点などを掘り下げてはいない。よって、本研究はプロ野球の若い女性ファンに着目し、2016年時点におけるプロ野球の女性ファンの実態を明らかにすることを目的とした。そして、具体的に彼女らがファンになるプロセス、プロ野球に対する観点、ファンになった後の変化を明らかにすることを課題とした。

2. 研究方法

大阪に住む20代前半の女性を対象とし、3球団のファン3名に二者対面式の半構造化インタビューを行った。

3. 結果と考察

プロ野球のファンになるプロセスにおいて直接的な機会として多かったのは、好きな選手ができたからという理由であった。しかし注目すべきは、「家族がプロ野球が好きだった」という幼少期の環境にプロ野球にふれる機会が多くあったという間接的な要因であった。また、高校時代に硬式野球部のマネージャーをしていたという経験的な要因も影響していることがうかがえた。

観点においては、選手の容姿、人間性といった部分に着目しつつも、プロ野球を一つの観点でみるのではなく、「選手をみる」、ポジションの特性を理解した上で「プレーをみる」、「応援をみる」というように、1人のファンが様々な視点を重ねてみているということが明らかになった。

そしてファン後の変化では、年齢を増すごとにグッズにお金をかけるようになったり、アイドル視点で選手をみていた時期を経て、監督の采配に着目するようになったりと、野球を競技としてみる観点が加わっていることが明らかになった。

引用・参考文献

- ・林史菜(2015)女性のプロ野球ファン集団的特性, びわこ成蹊スポーツ大学卒業論文.
- ・村上万純(2012)プロ野球女性ファン文化の変遷～「ミーハー」ファンから「オタク」ファンの時代～, 早稲田大学修士論文.